

GAPに取り組んでみませんか ～GAP認証について～

GAPはGood Agricultural Practices（農業生産工程管理）の略称で、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことを指します。GAPに取り組むことで、作業環境や経営管理（経営方針、役割分担、農場ルール等）に関わる事項が整理・整頓され、経営の見直しにも活用することができます。

このGAPに取り組んでいることを取引先等に示す手段として、GAP認証があります。日本では主にGLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAPが普及しています。いずれも民間団体が運営する認証で、国際規格(ISO)に基づく第三者機関の審査により、生産者又は生産者団体が正しくGAPに取り組んでいることを客観的に証明するものです。

稲敷地域管内では、米を中心にGAP認証を取得され(表)、経営に役立てられています。なお、茨城県では、GAP認証に対して、以下の事業を実施しています。

●茨城県 GAP 推進事業（GAP 認証取得支援アドバイザーの派遣）

茨城県内で国際水準のGAP認証の取得を目指す農業者等に対して、GAP認証の取得に係る助言指導やコンサルティング等を行うことができるGAP認証取得支援アドバイザーを派遣し、国際水準のGAP認証の取得を支援します。

詳しくは茨城県HP内「令和6年度農業者等支援施策活用ガイドブック」をご確認ください。

●農業生産工程管理（GAP）講座

いばらき農業アカデミーにて、7月と12月に農業生産工程管理（GAP）講座を実施する予定です。

詳しくは茨城農業アカデミーホームページをご確認ください。（右下に二次元コードがあります。）

GAP認証に興味のある方は普及センターまでお気軽にお問合せください。

表 稲敷普及センター管内でのGAPの取組状況

品目	ASIAGAP	JGAP
米	1	4
小麦※1	1	0
カンショ※2	0	1
タバコ※3	0	1
トマト	1	0

一般財団法人日本GAP協会認証HPの農場検索の結果を基に集計（学校は除く）

※1 米と同一の農場で認証されている。

※2、※3 カンショ、タバコともに同一の農場で認証されている。

県立農業大学の学生を募集しています

県立農業大学校では令和7年度入学生を募集しています。定員は農業部：農学科40名、畜産学科10名、園芸部：園芸学科30名です。

また、研究科は10名を募集します。

出願資格やオープンキャンパスについて、詳しくはホームページをご確認ください。

ブログでは農大の日常がご覧いただけます。

◆入学願書の受付期間

◎推薦入試

令和6年9月30日（月）～10月18日（金）

◎一般入試 前期・研究科

令和6年11月11日（月）～12月6日（金）

◎一般入試 後期

令和7年1月27日（月）～2月18日（火）

ホームページ



ブログ



【お問合せ先】 県立農業大学校
電話：029-292-0010 FAX：029-292-0903

いばらき農業アカデミーのお知らせ

茨城県では、農業技術や経営力の向上を目指す方や、就農を志している方など、幅広い方を対象に「いばらき農業アカデミー」を開講しています。

経営管理や生産・加工技術、先進技術など、目的に応じて自由に選択・受講することができます。

講座は順次開講しています。開講時期や内容、申込方法の詳細はホームページ、またはFacebookをご確認ください。



ホームページ



Facebook



【お問合せ先】 いばらき農業アカデミー事務局
電話：0299-45-8321 FAX：0299-45-8350

緑のしるべ

～夏号～

令和6年7月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター
稲敷市江戸崎甲541 稲敷合同庁舎内
TEL 029(892)2934 HP
FAX 029(892)6684
Mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp



農業学園 農作業安全講座・水稻育苗講座を開催しました



農作業安全講座



水稻育苗講座

普及センターでは、農業を始めて間もない方等を対象に、農業の知識・技術習得を支援するための講座「農業学園」を土浦・つくば地域と合同で開催しています。

令和5年12月11日開催の「農作業安全講座」では、農林水産研修所つくば館水戸ほ場において、農作業中で事故の発生が特に多い乗用トラクターや刈払機について作業時の注意点を学びました。また、実際にトラクターで傾斜面路を走行し、転倒寸前の危険な状況を体験しました。受講生からは「トラクターの斜面走行は貴重な経験となった」、「農作業の危険性を再度確認することができた」等の感想がありました。

令和6年2月20日開催の「水稻育苗講座」では、普及センターより、種子消毒から田植えまでの育苗作業中における注意すべきポイントや病害虫防除について説明しました。また、主食用米の品質向上のために、高温耐性品種の導入や間断灌漑の徹底を呼びかけました。

普及センターでは、様々な講座を開催し、新規就農者等の知識・技術習得を支援していきます。

農業学園に参加してみませんか？

農業の知識や技術のスキルアップに加え、同年代の農業者と情報交換・交流できる貴重な機会にもなりますので、ぜひ御参加ください。

令和6年度の講座は右表のとおり予定しています。詳細についてのお問合せや参加を希望される場合は、担当までご連絡ください。

（担当：海老原、小野）

時期	内 容（開催普及センター）
8月	ネギ講座（つくば）
9月	先進経営農家視察研修講座（稲敷）
10月	販売戦略講座（土浦）
11月	農業資材展示会視察研修講座（つくば）
12月	農業機械メンテナンス講座（稲敷）
1月	県南地域プロジェクト合同発表会（稲敷）
2月	農業安全・病害虫講座（土浦）

ナガエツルノゲイトウ・雑草イネの対策を徹底しましょう！

管内の水田では、「ナガエツルノゲイトウ」と「雑草イネ」の発生拡大が問題となっています。一度圃場に侵入すると防除が非常に難しいため、侵入させないこと、侵入した場合はすぐに対処することが重要です。ご不明な点は普及センターにお問い合わせください。

○ナガエツルノゲイトウとは

- ・南米原産の多年生植物で、特定外来生物に指定されています。
- ・水路や河川、湿地に生息する水草であるものの、乾燥に非常に強く、茎や根の断片からも植物体が再生して増殖します。
- ・茎は長さ0.5～1 mに達し、茎は空洞になっています（写真1）。
- 防除対策のポイント **刈払わず、除草剤の散布で防除しましょう**
- ・刈り払うと、散らばった茎から再生し、畦畔や圃場内に広がります（写真2）。
- ・畦畔で発生を確認した場合は、水田畦畔に登録のある非選択性除草剤を、圃場内で発生を確認した場合は、現時点で効果が高いことが確認されている成分を含む除草剤で防除しましょう。
- ・水口にネットをつけ（写真3）、圃場への侵入を防ぎ、破損等がないか時々確認しましょう。



写真1 植物体の特徴
左：葉は丸みを帯び先は尖る
右上：茎は空洞 右下：白い花をつける



写真2 畦畔で増殖している様子



写真3 侵入対策の水口ネット

（写真1の左及び右上写真は茨城県農業総合センター農業研究所提供）

○雑草イネとは

- ・栽培品種でない、圃場で自生している水稻の総称です。
- ・対策を行わずにいと、圃場全体にまん延し、収量が大きく減少する恐れがあります。
- ・穂から籾が容易に脱落するため、籾がなくなって立ったままの穂が観察されます。（写真4）
- ・稲敷地域で発生が確認されているものは、赤米（写真5）がほとんどです。
- ・のげが赤いもの（写真6）のほか、「コシヒカリ」等の栽培品種と見分けがつかないものも確認されています。
- ・機械作業等で土と一緒に雑草イネの種子を運んでしまうことで、他圃場への被害が拡大します。
- ・**雑草イネを見つけたら、すぐに抜き取り、圃場外に持ち出して処分しましょう。**

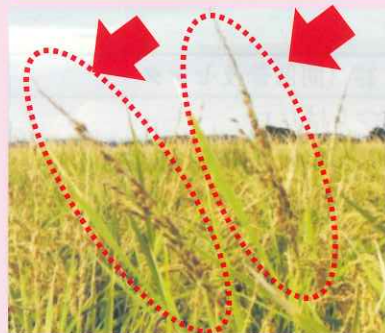


写真4 圃場で穂から籾が脱落した雑草イネ



写真5 雑草イネ多発生圃場から収穫した玄米



写真6 のげが赤い雑草イネ

全国そば優良生産表彰で 山口修司氏が「全国農業協同組合中央会会長賞」受賞



表彰式の様子（下段右端が山口修司氏）

令和5年度第35回全国そば優良生産表彰で、阿見町の山口修司氏が全国農業協同組合中央会会長賞を受賞しました。この表彰は、低コスト・品質向上などの面で模範となる生産農家及び生産集団を表彰するもので、阿見町からは昨年度の横張清彦氏に続き、2年連続の受賞となりました。

山口氏は令和元年に「常陸秋そば」の栽培を開始しました。既存の水稲用施設を活用した乾燥・調製によりコストを抑えつつ、緑肥を使った土づくり等を行い、高品質なそばの生産に取り組んでいます。

また、地域の遊休農地を引き受けることで規模拡大を図っており、今後も地域の担い手として活躍が期待されます。受賞おめでとうございます。

茨城県農業青年プロジェクト実績発表会で根本祐輔氏が優良賞受賞

龍ヶ崎市と稲敷市の農業後継者クラブ「のうけん」の根本祐輔氏のプロジェクト活動が、今年2月に開催された茨城県農業青年プロジェクト実績発表会で優良賞を受賞し、県の代表として、11月の関東ブロック農村青少年(4H)クラブプロジェクト実績発表会に出場することになりました。プロジェクト活動とは、農業者が自ら抱える課題を発見し、その解決のために目標・計画を立て、活動に取り組むことを通じ、課題解決を目指していくものです。

根本氏は稲敷市西代で水稻作りに取り組む若手農業者で、現在就農7年目です。プロジェクトでは、飼料用米の省力・低コスト栽培を目指し、基肥を比較的安価な鶏ふん肥料に代替する試験を行いました。試験区ごとに経営評価をし、最も収益性の高い作業体系を検討しつつ、追肥はドローンで行うなど、新たな技術を積極的に取り組む姿勢が評価されました。

根本氏はスマート農業の有用性に着目しており、自らの経営に取り入れるとともに、地域のスマート農業の普及・発展に貢献したいと考えています。普及センターでは、今後も若手生産者の取組を支援していきます。

度 茨城県農業青年プロジェクト実績発表会
主催：茨城県農業研究クラブ連絡協議会／茨城県



阿見町かんしょセミナーを開催しました

令和6年1月31日、阿見町でかんしょを生産する方を対象に「阿見町かんしょセミナー」を開催し、生産者10名が出席しました。

かんしょは現在、需要が高いのですが、“量”より“品質”が求められてきています。そこで、普及センターより収量・品質向上を目的とした「もぐら植え」、「めーでるシート」の導入試験やバイオスティミュラント資材「ポテトル」の散布効果試験の結果について説明しました。

今後も普及センターでは定期的な技術支援を行い、かんしょの生産振興に取り組んでいきます。

